

令和8年度 第140回木曽教育会総集會要項

期 日 令和8年5月15日(金)
会 場 木曽文化公園文化ホール
14:30~16:50

日 程

- | | |
|---|---------------|
| 受 付 | 14:00 ~ 14:20 |
| 開会音楽「ほらね、」
唱歌「朝」 斉唱(全員) | 14:30 ~ 14:39 |
| 1 開会のことば | 14:40 ~ |
| 2 会長あいさつ | |
| 3 来賓祝辞 | |
| 4 来賓紹介 | |
| 5 祝電披露 | |
| 6 令和7年度会務会計報告 並びに 令和8年度事業計画 | |
| 7 会員研究・実践発表 | |
| 『教育』というフレームをほぐし、新時代に求められる資質を培う学びへ
「令和の学び・新しい時代の教育」委員会：岩田 祥 先生(南木曽小)
末木 幸司郎 先生(南木曽中) | |
| 8 講演 | 15:30 ~ 16:40 |
| 演題 「絶対にあきらめない！
地域とともに存続を目指す銚子電鉄の挑戦」 | |
| 講師 <small>たけもと かつのり</small> 竹本 勝紀 様 (銚子電気鉄道株式会社 代表取締役社長) | |
| 9 閉会のことば | ~ 16:50 |

要項目次

- 1 総集會日程
- 2 来賓名簿
- 3 令和7年度 会務会計報告
- 4 令和8年度 木曽教育会事業及び運営
- 5 令和8年度 研究の進め方と研究体制
- 6 令和8年度 木曽教育会役員名簿
- 7 令和8年度 木曽教育会 会員数及び代議員名簿
- 8 令和8年度 木曽教育会事業部委員会構成
- 9 唱歌「朝」
- 10 講演 講師紹介

令和8年度 第140回 木曽教育会総集会 ご来賓名簿

1	信濃教育会 会長代理（事務局次長）	土屋 次男 様
2	長野県議会議員	大畑 俊隆 様
3	木曽郡町村会総務文教部長（木曽町 町長）	加藤 真和 様
4	木曽郡町村会 会長（木祖村 村長）	奥原 秀一 様
5	町村教委連絡協議会会長	増澤 正彦 様
6	町村教委連絡協議会教育長会長（南木曽町教育長）	松下 幸一 様
7	清音の会 会長	寺嶋 匡彦 様
8	木曽郡学校長会長（開田小学校）	奥原 成子 様
9	木曽校長教頭組合執行委員長（木曽町中学校）	橋場 直啓 様
10	県教組木曽支部執行委員長（福島小学校）	大屋 洋介 様

令和7年度 会務会計報告

木曽教育会

1 会務報告

(1) 会員数 208名

(2) 会議 総会議数回 56回

<内訳> 代議員会 5回 理事会 15回 監事会 1回

幹事会 17回 総委員会 1回

各委員会 17回 (道徳5 令和3 郷土調査4 HPあり方5)

(3) 主な事業

① 新任者の集い 4月24日(木) 木曽教育会館

② 第139回総集会 5月16日(金) 木曽文化公園文化ホールにて実施

○ 会員研究・実践発表 日義小学校 吉江 あや子 先生

開田中学校 牧 友博 先生

○ 講演会

アイロボットジャパン合同会社

代表執行役員社長 挽野 元(ひきの はじめ)様

③ 第76回木曽夏期大学 7月29日(火)～8月1日(金)

木曽町文化交流センターを会場にハイブリット開催を実施

④ 「二校目 教師の集い」 6月5日(木) 7月29日(火)

10月24日(金) (「信濃教育会教師塾B」と兼ねる)

⑤ 木曽地区教育研究集会(三者共催) 9月6日(土) 於 木曽町立福島小学校

(4) その他

研究調査部 2委員会 8名

郷土館部 1委員会 5名

編集部 『木曽教育』第101号 開田小学校

『清音』第251号 第252号 上松小学校

教養部 14同好会 発足

☆ 研究補助・県外視察補助 3名

☆ 日本連合教育会茨城大会

☆ 研究のまとめ 発刊

2 会計報告

一般会計	歳入決算額	歳出決算額	差引残額
	10,238,155 円	8,612,791 円	1,625,364 円
特別会計	事業資金	令和7年度 年度支出額	差引残額
	20,749,428 円	-1,500,000 円	22,249,428 円

令和8年3月31日現在(会計監査は5月下旬に予定)

2026年度 木曽教育会事業ならびに運営計画

1 基本方針

- (1) 木曽教育会 140 周年を迎え、創立の精神を継承し、会員の協力ときずなを強め、事業を通して、本会の目的の達成に期する。
(本会の目的)
会員一体となって教育精神を高揚し、教育の刷新とその充実を図り、ますます郷土文化を開発し、もって平和日本の建設と世界文化の進展に貢献すること。
- (2) 各学校職場の自主的な研修の基盤に立ち、その協力のもとに本会の目的に照らし意義ある事業、ならびに 21 世紀を生きる子どもに生きてはたらく事業の充実を図る。
- (3) 各事業は、会員の要望並びに同好の集まりの良さを生かす方向で広げ、会員の熱意に期待し、清新にして闊達な気あふれるよう運営する。
- (4) 各種の事業研究調査の委員会は、「21 世紀に生きる力を育む木曽教育の創造」に立つ研究体制にのっとり活動を進捗する。委員等は、幅広い会員の参加を得るように年齢・性別・学校等に偏りのないよう配慮する。
- (5) 教育会の目的にそって、郡的な文化活動推進の役割を担い、関係機関と提携して教育精神の高揚と教育の進展を図る。

2 各種事業の計画とその方針

基本方針をふまえ、前年度の反省を加えて、次のように各事業を計画する。

(1) 総集会

- ① 総集会（第 140 回）を、5 月 15 日（金）に木曽文化公園文化ホールで開催する。
- ② 全会員の参加により、充実した研修の機会とする。
- ③ 優れた講師を招き、講演会を持ち、深さと幅のある集会とする。
講師 竹本 勝紀 氏（銚子電気鉄道 株式会社 代表取締役社長）
- ④ 会員の意見・研究発表、調査委員会の報告等により、会員の資質を高める。

(2) 事業部

I 研究調査部

- ① 道徳・人権教育委員会（4 名） ② 「令和の学び・新しい時代の教育」委員会（4 名）
- ③ 養護教育委員会（4 名）＊R8 年度は休止
ア 研究調査部主催の研究会
・道徳・人権教育研究協議会 ・養護教諭研究発表会 （令和 8 年は休止）
イ 委員会で研究授業を行う際は、一度は一般会員に参観を呼びかける。

II 郷土館部

- ④ 郷土調査委員会（5 名）

III 編集部

- ⑤ 『木曽教育』編集委員会 〔木曽町中学校〕（令和 9 年度 〔南木曽中学校〕）
- ⑥ 『清音』編集委員会 〔王滝小学校〕 （令和 9 年度 〔三岳小学校〕）
※「清音」については、年 2 回学校だより形式で担当校が 7 月、10 月頃作成（内容としては、総集会（7 月）と夏期大学（10 月）に参加しての感想など）し、メールで各校へデータ送付。

Ⅳ 専門部

令和8年度は活動なし

Ⅴ 教養部

⑦ 夏期大学・講演・講習

ア 第78回の夏期大学を、郡町村会と共催し、全会員並びに地域住民の積極的参加を求め、充実した研修の場とする。

イ 開校以来78回の本大学の歴史と伝統に学び、充実を図る。

・期日及び講師

7月28日(火) 芸術	福江 良純 先生 (北海道教育大学教授)
7月29日(水) 哲学	伊藤 益 先生 (筑波大学名誉教授)
7月30日(木) 文芸	伊藤 由希子先生 (日本女子大学准教授)
7月31日(金) 時局	中西 寛 先生 (京都大学法学研究科教授)

ウ 講演・講習 会員のたためにより研修の機会となるよう設定する。

⑧ 同好会 郡研修日：夏休み中を含め、年4回

郡研修日 4月8日(水) 6月10日(水) 11月4日(水)

- ・授業研究会、講習会等 一般会員に参加を呼びかける。
- ・教育課程研究協議会への協力

⑨ 「二校目教師の集い」実施委員会(理事会担当)

Ⅵ 特別委員会

⑩ 情報委員会(3)

⑪ 教育会館移設準備委員会(3)(理事会担当)

- ・教育会館移設に伴う移設計画立案、移設準備等を行い、会館の移設を進める。

(3) 他団体との共催による会合

① 木曽地区教育研究集会 9月 5日(土)〔木曽町中学校〕

県教組木曽支部、県校長教頭組合木曽支部との共催

② 信濃教育会の「教師塾B」と「二校目教師の集い」の共催 10月23日(金)〔木曽教育会館〕

③ その他

- ・郡図書館教育研究協議会 (郡校長会)
- ・信濃教育会「今を生きる子どもの絵」巡回展(信濃教育会、郡校長会)
- ・人権教育連絡協議会(郡校長会)
- ・日本連合教育会全国大会長野大会兼信教全県大会(信濃教育会)
- ・チャレンジ推進ミーティング(CSM)(中信教育事務所)

3 その他

(1) 助成事業

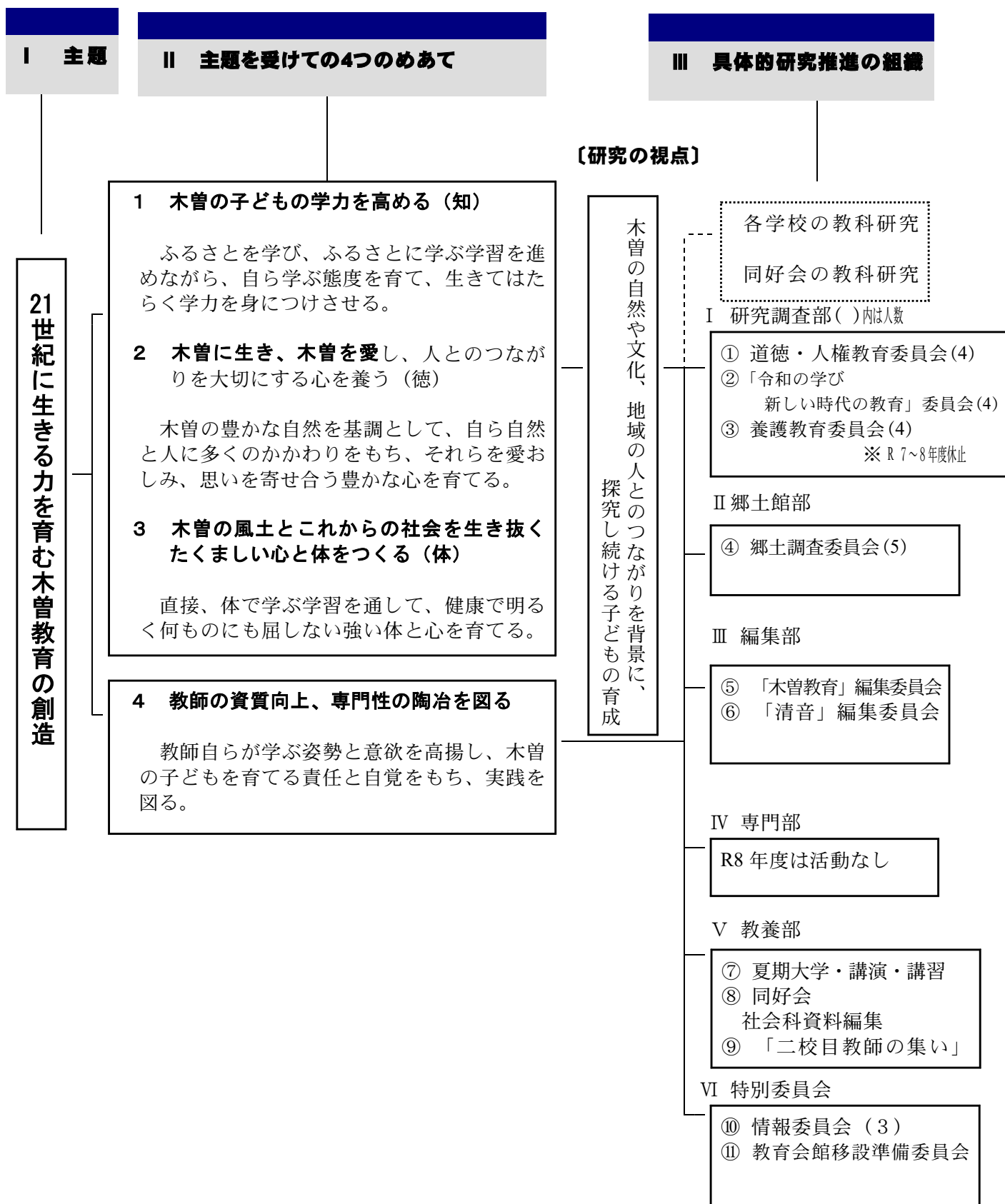
- ・視察・研究助成(4組)：1名または1組あたり 2万円(計8万円)
- ・研究会等参加助成(※)：1名あたり5千円(計2万円)

※ 任意の組織への代表等で研究会等に参加する場合に、出張扱いにならない時の助成

(2) 教育団体への助成 各種展覧会、同好会関係研究大会助成

(3) 教育会館の移転検討準備

「21世紀に生きる力を育む木曽教育の創造」に立つ研究体制



木 曾 教 育 会 の 研 究 の 進 め 方

木曾教育会研究調査部

1 令和8年度の研究の方向

(1) 令和7年度の研究を継続しながら、次のように進めたい。

主 題	21世紀に生きる力を育む木曾教育の創造
めあて	1 木曾の子どもの学力を高める（知） 2 木曾に生き、木曾を愛し、人とのつながりを大切にする心を養う（徳） 3 木曾の風土とこれからの社会を生き抜くたくましい心と体をつくる（体） 4 教師の資質向上、専門性の陶冶を図る
研究の視点	木曾の自然や文化、地域の人とのつながりを背景に、探究し続ける子どもの育成

(2) 組織の構成は、次の11とする。

- | | | | |
|-----------|------------------|--------------|---------------|
| ① 道徳・人権教育 | ② 令和の学び、新しい時代の教育 | ③ 養護教育（R8休止） | |
| ④ 郷土調査 | ⑤ 「木曾教育」編集 | ⑥ 「清音」編集 | ⑦ 夏期大学・講演・講習 |
| ⑧ 同好会 | ⑨ 「二校目 教師の集い」 | ⑩ 情報委員会 | ⑪ 教育会館移設準備委員会 |

2 委員会のテーマと「研究の視点」との関係

各委員会のテーマはそれぞれ独自のものでよいが、そのテーマに「研究の視点」を反映させるようにさせたい。各学校の子どもの実態をとらえ、地域性や地域の人々とのつながりを生かし、木曾の子どもたちに主体的に探究する力をつける指導の場の構成を目指したい。

3 予想される研究内容

- (1) 児童・生徒の活動や一時間の授業や一単元の構想
- (2) 先進施設・関係機関の見学等の研修
- (3) テーマを掲げて、情報交換や対話による研修
- (4) 関連する会合の開催のための企画や協力

4 研究調査のまとめ

現場への還元は、次のような方法で考えていく。

- (1) 各委員会独自のもの
- (2) 総集会、研究会、研修会における発表
- (3) 「研究のまとめ」（教育会紀要）
 - ① まとめの仕方については、後日文書で依頼し、1月中旬に委員会ごと印刷して提出。第5回代議員会で報告を行い各学校へ配布する。
 - ② 冊子の他に、委員会ごとのものを各学校へ1部ずつ配布。参考資料として活用する。
 - ③ 研究のまとめ、「木曾教育」、「清音」等との大きな重複は避けながらも、今後の記録として残るようしておく。
 - ④ 総集会等、会員発表の場でも発表することができる。

5 研究調査のための補助

- (1) 委員会事業については、予算に従って補助をする。
- (2) 同好会についても予算に従って補助をする。
- (3) 個人や学校単位での視察や研究、研修への補助をする。

6 研究のための活動日

- (1) 委員会事業については、原則として火曜日とする。
- (2) 年間の委員会回数は、6回以内とする。(第1回は4月とし、以後5回を目途とする。)
なお、6回を超える場合は、会長に申し出る。

7 特別委員会等の設置

- (1) 同好会や委員会に委嘱して運営することに支障が生じる場合には、必要に応じて特別委員会を設置することができる。この場合、必要があれば郡校長会と連絡をとる。
- (2) 同好会と研究上の連携を保つために、必要に応じて「連絡機関」を設置する。
- (3) 信濃教育会全県研究大会の当郡開催の場合は、会場校の主体性を重んじながら、研究の支援体制を組むこともある。
- (4) 令和5年度に設置したホームページあり方委員会は、令和8年度以降は「情報委員会」(特別委員会)として位置づけ、ホームページの管理運営を行う。
- (5) 「二校目 教師の集い」については、今後も継続して実施することを鑑み、「教養部 二校目教師の集い」として位置付ける。
- (6) 教育会館の移設に伴い「特別委員会 教育会館移設準備委員会」を設置し、会館移設の準備を進める。

8 同好会に委嘱・協力を必要とする事業

教科の同好会の中から委員を委嘱して、旅費の補助をする。

- (1) 郷土社会科資料(小学校3・4学年)の配本・編集作業 (社会科)
- (2) 郷土社会科資料(中学校地理編・歴史編)の配本・編集作業 (社会科)
- (3) 「今を生きる子どもの絵展」「科学作品展」「県児童生徒美術展」「習字」「読書感想文コンクール」の作品募集と審査(国語科、理科、図工・美術科)

9 他団体との連携・共催による会合

(1) 共催による会合

- ① 木曽地区教育研究集会 (県教組木曽支部・県長頭組木曽支部)
- ② 郡図書館教育研究協議会 (県図書館協会木曽支部)
- ③ 人権教育連絡協議会

(2) 信濃教育会全県研究大会への支援

(3) 木曽地区教育研究集会

- ① 学校、職場、個人等による主体的な研究の発表の場ととらえ、積極的な参加を期待する。
- ② 各委員会は、前年度に引き続き研究の成果をもって参加する方向で考える。
(道徳・人権教育 令和の学び、新しい学び 養護教育(R8は休止)等)

10 参考

(1) これまでの研究の視点

年 度	研 究 の 視 点
平成5～6	基礎的基本的な内容を身につけさせる1時間の授業展開と評価
平成7～8	基礎的基本的な内容が身につく1時間の授業展開と評価
平成9～23	木曽の子どもの姿を確かにとらえ、つける力とその指導の過程を明らかにする。
平成24～令和5年	木曽の子どもの姿をとらえ、子どもとともに学びを深める授業づくり
令和6年～	木曽の自然や文化を背景に、探究し続ける子どもの育成
令和8年～	木曽の自然や文化、地域の人とのつながりを背景に、探究し続ける子どもの育成

(2) 各委員会の研究テーマ等(各委員会の引継による)

令和8年度 木曽教育会役員名簿

1 木曽教育会

会 長	岩原 浩司	木祖中学校
副会長	北原 健吉	王滝小学校
理 事	岩原 秀志	上松中学校
	甘利 秀也	福島小学校
	松井 秀文	南木曽小学校
監 事	神山 明彦	木曽支援学校
	井野口 毅	大桑中学校
幹 事	鬼頭 康	上松小学校
	水野 真二郎	開田小学校
	田中 奈穂	南木曽中学校
事務局	上田 宏志	
	上垣外 澄子	

2 信濃教育会

常任委員	岩原 浩司	木祖中学校
代議員	北原 健吉	王滝小学校
(補欠員)	岩原 秀志	上松中学校

令和8年度 木曽教育会代議員会名簿・会員数 2026/5/7現在

No	学校名	木曽教育会会員数	信濃教育会会員数	代議員会氏名	
1	木祖小学校	13	9	奥 原 克 水	
2	木祖中学校	13	9	上 村 裕 一	
3	日義小学校	13	11	林 正 明	
4	福島小学校	17	17	橋 爪 祐 一	宮 坂 康 汰
5	木曽町中学校	17	11	横 井 和 浩	渡 澤 由 香
6	開田小学校	9	6	大 輪 涼	
7	三岳小学校	12	8	北 原 淳 子	
8	王滝小学校	6	5	倉 上 貴 匡	
9	上松小学校	18	16	中 村 純 也	鈴 木 香 里
10	上松中学校	14	7	正 澤 典 子	
11	大桑小学校	13	13	久 保 田 敬	
12	大桑中学校	14	10	外 垣 秀 毅	
13	南木曽小学校	12	6	岩 田 祥	
14	南木曽中学校	17	10	脇 田 隆 彦	中 嶋 宏 幸
15	木曽支援学校	15	11	小 林 真 理 子	
	合計人数	203	149	19	

※代議員数・・会員15名まで1名（「木曽教育会定款」施行に関する細則第6条）

令和 8 年度 木曽教育会事業部委員会構成

部 名	No.	委 員 会 名	委 員 長	副委員長	委 員		備 考	
Ⅰ 研 究 調 査 部 甘利 理事	1	道徳・人権教育 (4)	山下鮎里 大桑小	保崎衣芙季 木祖中	望月花菜 木曽町中	油井恭花 上松小		
	2	令和の学び・新しい時代の教育(4)	岩田 祥 南木曽小	南原直紀 上松中	和田裕太 福島小	末木幸司郎 南木曽中		
	3	養護教育 (4)		令和7～8年度 休止				
Ⅱ 郷 土 館 部 松井理事	4	郷土調査 (5)	田口浩一郎 木曽町中	奥原克水 木祖小	石巻惣之介 日義小	高桑 緑 開田小	関 夏葵 木曽支援	
		自然調査 (4)		平成30年度より理科同好会へ活動移行				
Ⅲ 編 集 部 甘利理事	5	『木曽教育』編集	木曽町中学校		令和9年度：南木曽中学校			
	6	『清音』編集	王滝小学校		令和9年度：三岳小学校			
Ⅳ 専 門 部		青年教師フォーラム 信教委員		令和8年度は活動なし				
Ⅴ 教 養 部 岩原(秀) 理事	7	夏期大学 講演・講習	全理事					
	8	同 好 会 認定・補助金	理事 岩原 秀志					
	9	二校目教師の集い	全理事					
Ⅵ 特 別 委 員 会	10	情報委員会(3)	橋爪 祐一 福島小	上條達志 三岳小	岩崎希望 大桑中			
	11	教育会館移設 準備委員会	全理事					
清 音 の 会			会長 岩原 浩司 副会長 北原 健吉					

幹 事	幹事長 <u>鬼頭 康</u> 幹事 <u>水野 真二郎</u> 幹事 <u>田中 奈穂</u>
-----	--

朝

島崎藤村 作詞
小田進吾 作曲

力強く元気に

1. あ さ はふたたび ここのにあり あ
2. も ろ はうちふる く だ 一か け 一 は のん

さ ど はわれらと と 一も にあ 一り う
の ふえを 一 ふ 一き な ら 一し きよ

も れのいねむり ゆ 一け よ ゆ 一め か く
う の い のちの た 一 た か い 一 の よ そ

れ よ さ 一 ら 一 ば 一 さ 一 よ あ ら 一 し
お い せ 一 よ 一 と 一 さ 一 け 一 ぶ か な

わ ら 一に 一い 一で よ の 一に い で 一よ い 一
の ら 一じ 一とく ゆ え か 一 ま も と 一 れ か ぜ

ね の ほ は く きにみのりた り
に い な は く う 一 ま も 一 や 一 れ

朝

一 朝はふたたび ここにあり

朝はわれらと共にあり

埋もれよ眠 行けよ夢

隠れよさらば 小夜嵐

二 諸羽うちふる 鶏は

咽喉の笛を 吹き鳴らし

きょうの命の たたかいの

よそおいせよと 叫ぶかな

三 野に出でよ 野に出でよ

稲の穂は 黄にみのりたり

草鞋とく結え 鎌も執れ

風に嘶く馬もやれ

「絶対にあきらめない！地域とともに存続を目指す銚子電鉄の挑戦」

講師 銚子電気鉄道（株）代表取締役社長 竹本 勝紀 様



【プロフィール】

1962 年（昭和 37 年）千葉県木更津市生まれ 慶応義塾高校を経て慶応義塾大学経済学部卒業。県内の税理士事務所に勤務の後、平成 21 年に竹本税務会計事務所を開設。税理士として約 550 社に上るクライアント企業の税務申告のほか、経営指導を行う。

平成 17 年より銚子電気鉄道株式会社の顧問税理士となり、同 20 年社外取締役に就任、同 24 年 12 月、代表取締役に就任。以来、約 25 名の社員と共に経営再建に向けて奔走を続けている。平成 28 年甲種動力車操縦者運転免許を取得。また、千葉科学大学非常勤講師として財政学を担当している。

【著書・論文】

- ・ 崖っぷち銚子電鉄 なんでもありの生存戦略（共著） イカロス出版（2019 年）
- ・ CVM法による生産緑地の環境便益評価（Estimation of Environmental Benefit on Agricultural Land District by CVM）（日本地域学会：学会発表・審査付論文）
- ・ 生産緑地が有する環境保全機能の経済的評価（Economic Estimation of Environmental Preservation Function on Urban Agricultural Land）（環境共生学会：審査付論文）
- ・ 定期借地権の相続税評価に関する一考察（日本不動産学会 学会発表） ほか

【マスメディア出演】

「カンブリア宮殿」（テレビ東京）「シューイチ」 「月曜から夜更かし」 「ニュース every」（日本テレビ）
「TV タックル」 「ザワつく金曜日」 「ワイドスクランブル」 「スーパーJ チャンネル」（テレビ朝日）
「視点・論点」 「おはよう日本」 「沁みる夜汽車」 「Japan Railway Journal」（NHK）

NHK ラジオ バイ FM 週刊新潮 アエラ 文芸春秋

ほか